



第19期 報告書

平成22年4月1日～平成23年3月31日



株式会社 ソディック プラステック

株主の皆様へ



SODICK PLUSTECH
20年の技術革新実績

100,000
台

高速・高応答性
“リニアモータ・ユニット”の販売実績
最高の制御精度と省力化を兼ね備えた
独自開発モーションドライブ

10,000
台

Vライン可塑化・射出方式
“安定・高精度射出成形機”の販売実績
安定・高精度マシンならではのクオリティが
競争力ある成形品を生出す

1,000
ライン

毎時3,000食以上
“大型製麺プラン”の納入実績
「安全」「安心」「エコロジー」で
大手ナショナルブランドベンダーに

100
台

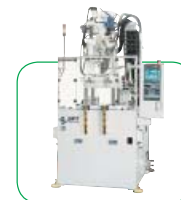
“A-CIP 全自動茹麺装置”の納入実績
自動洗浄機能が付いた
「高効率」「清潔」「簡単メンテナンス」

10
億

“全自動製麺ライン”を
海外食品製造メーカーより10億円で受注
高衛生レベル EHEDG 仕様の
安心・安全プラントとして国内初の受注

ONLY
1

世界にひとつ
“総合シミュレーションソフト”
リニアモータ使用超精密ステージの
動的特性シミュレーション



連結業績の推移

(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

当期におけるわが国経済は、急激な円高、デフレの進行、雇用の低迷はあったものの、新興国による需要の増加、エコポイント等の景気対策効果等により、景気は緩やかな回復基調をたどりました。しかしながら、本年3月に発生いたしました東日本大震災の甚大な被害により、景気の先行き不透明なまま当年度末を迎えることになりました。

当業界におきましては、国内においては前年度より受注は回復したものの、円高やそれによる設備回復の遅れ、海外生産へのシフトなどにより、リーマンショック以前の水準に対して半分程度にとどまりました。しかし、輸出においてはアジアでの急激な景気の回復があり、射出成形機市場もV字回復しました。年度後半は円高が進行し、海外メーカーとの価格競争が一層厳しさを増し、販売量の減少や収益が悪化しました。その為、輸出市場の拡大に対応し、価格競争力を強化するため、海外での生産を本格化する日本の射出成形機メーカーが増えました。

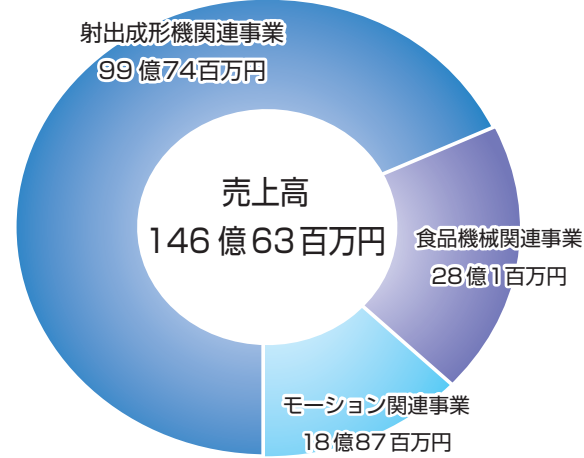
このような状況のもと、当社グループはソディックグループの中国生産拠点である、沙迪克（厦門）への生産委託を開始して、顧客のニーズに応じた新製品の開発と販売活動に努めるとともに引き続き、全社的なコスト削減に取り組んでまいりました。

その結果、当期連結売上高は、146億63百万円と前期同期と比べ53億円(56.6%)の増収となりました。

利益面につきましては、営業利益5億32百万円(前期営業損失1億65百万円)、経常利益は3億56百万円(前期経常損失2億92百万円)、当期純利益は5億29百万円(前期純損失2億58百万円)となりました。

代表取締役社長
藤川 操

セグメント別売上高

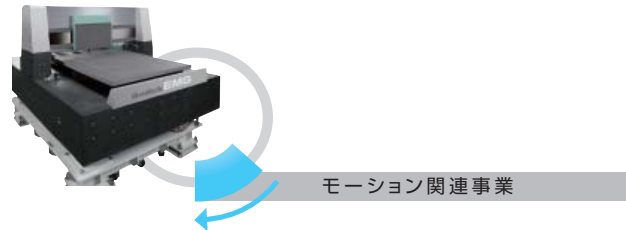


射出成形機関連事業につきましては、年度前半は国内では政府のエコカー減税や補助金の効果から自動車業界の受注が伸び、売上も順調に推移いたしました。海外向けにおきましては、アジア地区の韓国、台湾でLED部品関係及び電子精密部品業界等の受注が予想を上回る回復で堅調に推移いたしました。年度後半は国内では政府のエコカー補助金の終了及び円高の影響から自動車業界の受注は低迷しましたが、開発中であったMP450、TR650EH2の大型機が製品化され売上の減少の歯止めとなって貢献し、さらにTR650EH2は日刊工業新聞十大新製品の「日本力（にっぽんぶらんど）賞」に選定され、ヴォリュームゾーンである32インチ、40インチ液晶テレビ用導光板の安価・安定成形に新たな道をつくり、活発な引き合いとなっています。

海外向けにおきましては、年度前半、アジア地区（韓国、台湾）でのLED部品関係及び電子精密部品業界等の受注が予想を上回る回復で推移いたしました。年度後半はLED部品業界等の設備投資の有感による落ち込みはあったものの期末にかけやや上向きになりました。

その結果、通期売上高は前期よりの受注残と上期の活発な受注から99億74百万円営業利益は9億59百万円となりました。

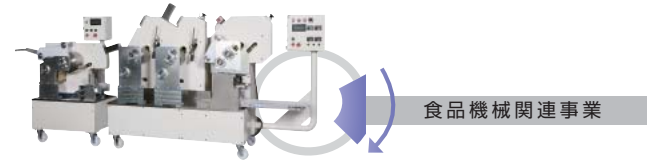
来期の売上に関しましては、スマートフォン関連や、電子精密部品関連向けの需要見込まれ、堅調に推移すると思われます。



モーション関連事業につきましては、年度前半は液晶製造関連業界の検査装置、製造装置向け等の精密ステージの受注が順調でした。IPM モータとモータドライバの開発を行ない、中国の生産ラインを立上げました。しかし、競合先との販売競争の激化により、原価率が悪化いたしました。年度後半は当社連結子会社である沙迪克（厦門）機械科技有限公司のモータ生産設備が完成し、モータ関連の売上が本格的に開始しました。特機関連につきましては、液晶製造関連業界の中国向け設備が増加してきたため、売上は回復基調にありましたが、競合先との販売競争激化により原価率は悪化いたしました。

その結果、モーション関連事業の通期売上高は18億87百万円、営業損失は95百万円となりました。

来期の売上に関しましては、製品のラインアップが拡大し、モータ関連の売上も回復基調にある為、順調に推移すると思われます。

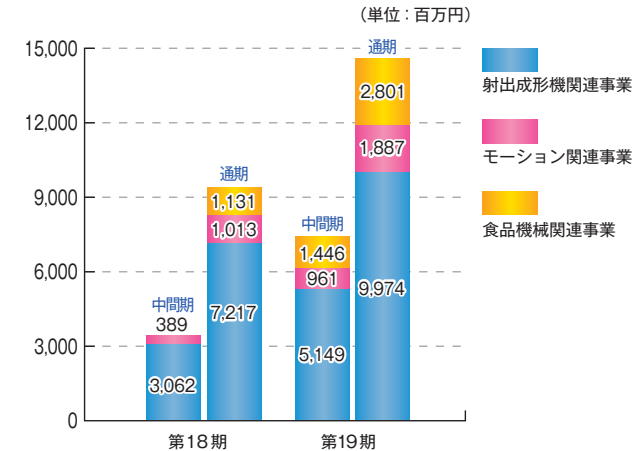


食品機械関連事業につきましては、今年度、麺の安全・保存麺から即席麺、冷凍麺の需要の拡大に伴い、製造設備の改良・増設の要求に即して、従来の装置に改良・改善を加えた装置の開発を行ないました。また、大手の食品メーカーも海外進出、生産を計画している為、当社の海外生産拠点を活用し販路の拡大を行ないました。

食品業界が寡占化される傾向にある中、競合他社との販売競争が続いていますが、大手食品メーカーからの製麺プラントの受注は、順調に推移いたしました。

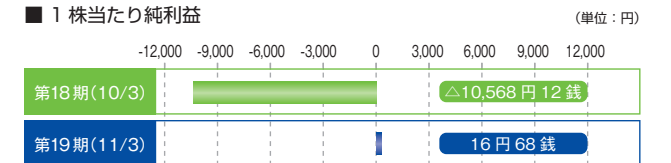
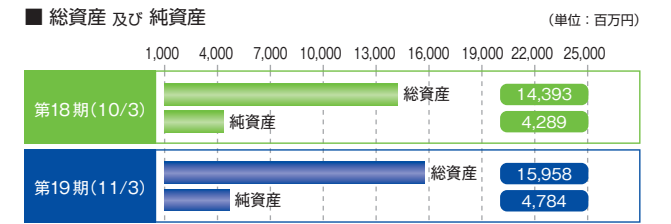
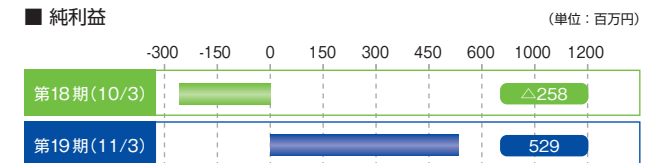
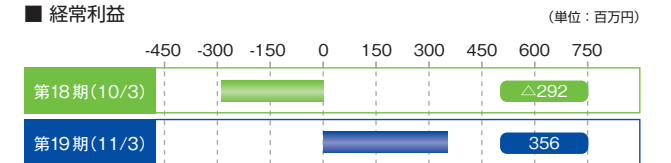
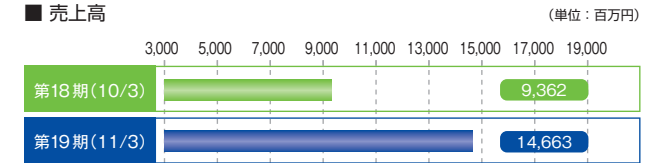
その結果、食品機械関連事業の通期売上高28億1百万円、営業利益1億83百万円となりました。

来期の売上は、競合他社との販売競争は続くものの、大手食品メーカーからの受注は前年同様、順調に推移すると思われます。



連結業績の推移

(平成22年4月1日～平成23年3月31日)



※平成22年10月1日付で普通株式1株に対し、普通株式1,000株の割合で株式分割を行いました。前期首に当該株式分割が行われたと仮定した場合の第18期の1株当たり純損失は10円57銭です。

連結財務諸表（要約）

□ 連結貸借対照表

科目	単位：百万円	
	第18期 (平成22年3月31日)	第19期 (平成23年3月31日)
資産の部		
流動資産	8,897	10,733
現金及び預金	2,362	2,034
受取手形及び売掛金	3,809	4,463
製品	343	481
仕掛品	1,042	1,470
原材料	988	1,811
その他	359	480
貸倒引当金	△6	△8
固定資産	5,495	5,224
有形固定資産	4,201	4,314
無形固定資産	730	742
投資その他の資産	563	168
資産合計	14,393	15,958

科目	単位：百万円	
	第18期 (平成22年3月31日)	第19期 (平成23年3月31日)
負債の部		
流動負債	6,813	8,101
支払手形及び買掛金	3,315	4,054
短期借入金	1,400	1,400
一年以内返済予定長期借入金	1,241	1,162
未払法人税等	28	108
その他	828	1,376
固定負債	3,289	3,072
負債合計	10,103	11,174
純資産の部		
株主資本	4,299	4,830
資本金	2,873	2,873
資本剰余金	1,298	1,298
利益剰余金	127	657
その他の包括利益累計額	△10	△46
新株予約権	0	—
純資産合計	4,289	4,784
負債純資産合計	14,393	15,958

□ 連結損益計算表

科目	単位：百万円	
	第18期 (平成21年4月1日～ 平成22年3月31日)	第19期 (平成22年4月1日～ 平成23年3月31日)
売上高	9,362	14,663
売上原価	7,938	11,836
売上総利益	1,423	2,826
販売費及び一般管理費	1,588	2,294
営業利益	△165	532
営業外収益	96	63
営業外費用	223	240
経常利益	△292	356
特別利益	178	73
特別損失	71	13
税金等調整前当期純利益	△184	416
法人税、住民税及び事業税等	23	129
法人税等調整額	50	△238
少数株主損失	—	△4
当期純利益	△258	529

□ 連結キャッシュ・フロー計算書

科目	単位：百万円	
	第18期 (平成21年4月1日～ 平成22年3月31日)	第19期 (平成22年4月1日～ 平成23年3月31日)
営業活動による キャッシュ・フロー	1,060	24
投資活動による キャッシュ・フロー	△2,258	△207
財務活動による キャッシュ・フロー	1,576	△307
現金及び現金同等物に 係る換算差額	1	△15
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	380	△505
現金及び現金同等物の期首残高	1,981	2,362
新規連結子会社の増加に伴う 現金及び現金同等物の増加額	—	176
現金及び現金同等物の 期末残高	2,362	2,034

□ 連結株主資本等変動計算書 (平成22年4月1日～平成23年3月31日)

科目	株主資本				その他の 包括利益累計額	新株予約権	少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計				
前期末残高	2,873	1,298	127	4,299	△10	0	—	4,289
当期変動額								
新株の発行	0	0		0				0
当期純利益			529	529				529
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					△35	△0	—	△39
当期変動額合計	0	0	529	530	△35	△0	—	494
当期末残高	2,873	1,298	657	4,830	△46	—	—	4,784

単体財務諸表（要約）

□ 要約貸借対照表

単位：百万円

科目	第18期	第19期
	(平成22年3月31日)	(平成23年3月31日)
流動資産	8,782	9,817
現金及び預金	2,291	1,639
受取手形及び売掛金	3,795	4,400
たな卸資産	2,344	3,357
固定資産	5,561	5,877
資産合計	14,343	15,695
流動負債	6,835	7,770
固定負債	3,289	3,057
負債合計	10,124	10,828
資本金・資本剰余金	4,172	4,172
利益剰余金	46	693
評価・換算差額等	△0	0
純資産合計	4,218	4,867
負債・純資産合計	14,343	15,695

□ 要約損益計算書

単位：百万円

科目	第18期	第19期
	(平成22年3月31日)	(平成23年3月31日)
売上高	9,256	14,294
売上原価	7,878	11,510
売上総利益	1,378	2,784
販売費及び一般管理費	1,590	2,200
営業利益	△212	583
営業外収益	111	84
営業外費用	216	207
経常利益	△318	461
特別利益	95	72
特別損失	70	13
税金等調整前当期純利益	△293	520
当期純利益	△356	646

□ 要約株主資本等変動計算書 (平成22年4月1日～平成23年3月31日)

単位：百万円

科目	株主資本				評価・換算差額等	新株予約権	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計			
前期末残高	2,873	1,298	46	4,218	△0	0	4,218
当期変動額							
新株の発行	0	0		0			0
当期純利益			646	646			646
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	0	0			1	△0	0
当期変動額合計	0	0	646	647	1	△0	648
当期末残高	2,873	1,298	693	4,866	0	—	4,867

株式の状況・会社の概要

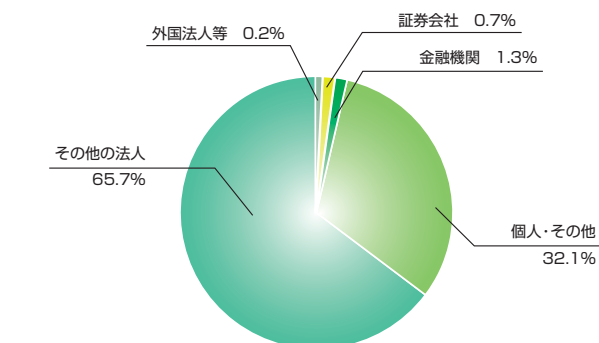
□ 株式の状況 (平成23年3月31日現在)

発行可能株式総数 55,088,000株

発行済株式総数 31,758,000株

株主総数 1,825名

所有者別株式分布の状況



大株主の状況

株主名	持株数 / 株	議決権比率 / %
株式会社ソディック	20,444,000	64.3
鈴木 正昭	1,020,000	3.2
古川 利彦	1,000,000	3.1
ソディックプラステック 栄光持株会	760,400	2.3
大迫 健一	500,000	1.5
藤巻 繁	300,000	0.9
ソディックプラステック 従業員持株会	300,000	0.9
佐野 定男	200,000	0.6
市川 剛志	200,000	0.6
藤川 操	164,000	0.5

※ 1. 平成22年10月1日付で株式分割を行い、1株を1,000株に分割しております。
 ※ 2. 平成22年10月1日付で単元株式数を100株にしております。

□ 会社の概要 (平成23年3月31日現在)

商号	株式会社ソディックプラステック
設立	平成4年7月29日
資本金	28億7,388万円
主な事業内容	射出成形機及びその他周辺機器の開発・製造・販売 精密ステージの販売、並びに食品加工機械及び関連 機器の開発・製造・販売
従業員数	331名(子会社への出向者を含みます)



□ 役員 (平成23年6月28日現在)

取締役相談役	古川 利彦	取締役	吉岡 洋二郎
代表取締役会長	鈴木 正昭	取締役	神野 久彦
代表取締役社長	藤川 操	取締役	大熊 正樹
取締役副社長	大迫 健一	取締役	水上 裕司
専務取締役	山本 孝志	取締役	谷口 一芳
専務取締役	藤巻 繁	取締役	元矢 享嘉
専務取締役	佐野 定男	取締役	江戸屋 勝義
常務取締役	市川 剛志	取締役	新家 一朗
常務取締役	河本 朋英	取締役	神谷 耐太郎
取締役	牧崎 利郎	常勤監査役	宮地 嘉寿夫
取締役	吉田 伸一	監査役	島村 和也
取締役	北村 重臣	監査役	保坂 昭夫
取締役	西 耕平	監査役	渡邊 源一

※ 取締役相談役、古川利彦は社外取締役であります。
 ※ 監査役、宮地嘉寿夫、島村和也及び、渡邊源一は社外監査役であります。
 ※ 廣崎厚生は平成22年12月31日にて監査役を辞任しております。

ソディック プラステック

SPT次世代戦略

設立当初から揺るがない 徹底したコンセプト

1989年にソディックの射出成形機開発部門が独立して出来たのが、ソディックプラステックです。お蔭さまで「Vライン方式」による安定・高精度射出成形機の販売台数が1万台を突破し、同時に事業の多角化もなし得てきました。設立以来23年間、ソディックプラステックとしてのこだわりは変わっていません。「技術」に自信を持ち、市場ニーズに対応し、顧客ニーズに十分耳を傾けてきたからです。

設立当初、他社の後追いでは意味が無い、明確な差別化が必要であると考えてアプローチした「Vライン方式」です。先見的で独自の方式であるこの技術は、当然のように新技術への疑問符も投げかけられ苦戦を強いられました。しかし次第に優位性が立証され、精密成形及び大型薄肉成形分野で広く認められていったのです。

大事なのは 「状況技術」の把握

省エネは世界的な緊急課題です。例えばソディックプラステックでは20年前からLEDに注目し堅型射出成型機の開発を続けてきました。そして今、その努力が開花して生産が追いつかないほどのヒットを生み出しています。

また、熱硬化性シリコン成形でも多くの実績を上げてきています。アメリカでは「シリコンプロフェッショナル」のブランド名でソディックプラステックの名が浸透しています。これも成長著しい分野です。加えて軽金属成形機の開発も手掛け、スマートフォンやタブレット端末に使用される筐体などに、当社のマグネシウム成形機が実績を上げています。ご承知のように現在もっとも熱い市場かもしれません。

つまり、成形業界のソディックプラステックにとって、世の中の動向をいかに把握し、我々の技術をもってして、どのように参入していくかが、なによりのキーポイントです。これを「状況技術」と呼んでいます。今後、どのようなアプローチで我々の事業を展開するかは、まさに「状況技術」とともにあると思っています。これまでの経験と実績によって新たなシーンにチャレンジをしていく、それがソディックプラステックなのです。

代表取締役社長 藤川 操

“モノづくり”から“未来を創る”へ進化する

大いなる可能性を秘めた食品業界、 そしてモーション技術へ

2009年からソディックプラステックに食品機械事業が加わりました。「食は永遠のテーマ」と言われるように、大いなる可能性を秘めた業界です。食品業界は安全・安心が第一です。生産工程のトレーサビリティシステム（情報管理）などの市場ニーズを確実に捉えた事業展開に重点を置き、かつ納期の短縮、コストの問題などを考慮してきました。欧州の安全規格に相当する「EHEDG（イーヘッジ）」に準拠する機械の開発なども行なっています。その結果、食品機械としての様々なノウハウを学び、生産効率アップのための作業標準化も押し進めています。

さらなる事業展開も、もちろん行なっています。そのひとつがモーション関連事業に対する、ソディックプラステック式アプローチでしょう。例えば、リアモータやモーションコントロールなどのコアテクノロジー開発で、力を入れています。

こうした多方面への展開は、ソディックプラステックの人的資材をより有効に活用し、積極的な多角的事業展開をするという、当社の基本コンセプトの賜物だと信じています。

高品質を求める世界の モノづくりこそ我々のステージ

ソディックプラステックでは設立当初から台湾、そして中国に拠点を置き、市場を開拓してきました。さらに香港・シンガポール・バンコク・ベトナムなどへと広げてきました。昨今では医療機器分野でアメリカを視野に入れ、大国インドへのアプローチも行なっています。低コストで作れるものは海外で作り、高品質商品の安定供給を可能にしました。その結果、我々の機械が売れて行くという、理想的な図式が出来上がりました。ただし海外で製作が困難な超高精度のモノに関しては、日本で開発しています。安心と信頼を守る2本柱です。

グローバルな視点で言えば、より専門的な技術、市場をいかに把握していくかでしょう。これも「状況技術」の話になりますが、アジアのそれぞれの国で、何が必要とされているか、専門的な視線で見つめる必要があります。これが今後の焦点になろうと考えています。これから更に求められるのは「信頼と品質」です。中国でも年々製品の高品質追求が高まっています。つまりソディックプラステックの持つトップ技術が増々必要とされる時代に突入しているのです。射出成形機は今後もどんどん世界市場に打って出ます。販売網の拡充を実現し、顧客ニーズに合わせた成形機の開発を目標にしています。さらに食品機械も中国、インドといった巨大マーケットを視野に入れています。これまで培ったアジア諸国との協力を、元々持つ我々の高い技術力、さらには「状況技術」を駆使し、増々加速する世界需要に堂々と挑める基盤はすでに出来ています。

世界的大恐慌に揺れ、未曾有の大震災に見舞われた日本は、元気を失っています。しかし、ソディックプラステックの技術と世界を見つめる目が、「モノづくり大国ニッポン」「技術のニッポン」という称号を取り戻す為に必ず役立つと信じ、さらに次の一世紀に向けて私たちは歩き続けます。

□ 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日 そのほか必要があるときには、 あらかじめ公告して定めた日
株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所	東京都中央区八重洲二丁目3番1号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先)	〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	☎0120-176-417
(インターネット ホームページ URL)	http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/ service/daiko/index.html

【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会には口座のある証券会社宛にお願いいたします。

証券会社に口座を開設されていない株主様は上記の電話照会先にご連絡ください。

【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます。)を開設いたしました。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、上記の照会先をお願いいたします。

公告の方法	当社ホームページに掲載する。 http://www.plustech.co.jp
上場証券取引所	大阪証券取引所 JASDAQ(スタンダード) (証券コード: 6401)



株式会社 ソディック プラステック

〒224-8522 神奈川県横浜市都筑区仲町台3-12-1
TEL:045-948-1405 (代表)

